



ドキドキしたてはないか！

結果発表の時は、最初に35Rと同じくらいのレベルだったなと思ったクラスが梁田賞になり、その後、35R以上の演奏だったとは思えなかったクラスが3位、2位と来たので、これはもう優勝しかあり得ないと思ってドキドキしていたのだが、なんと別のクラス……。呆然自失…は大袈裟だが、かなりガッカリ…もちろん君たちに対してではなく、審査結果に対してである。

こう見えても、昨年身内の不幸で出席できなかった以外の10年間、ずっと合唱祭を見てきて、その間（正確な順位まではともかく）1～3位に入るクラスをはずことはほとんどなかった。今回は、審査委員長が言っていたように、甲乙つけがたいイイ演奏が軒並みで、それはそれで担任団の一員としてはとてもうれしいのだが、全体の仕上がり具合を始め、演奏中に態度、ピアノ、指揮者が全てをコントロールしている一体感、そして、簡単な曲をキレイに仕上げるのではなく、難しい曲をしっかり仕上げたといった部分でも、もう完全に35Rが一番だったのではないかと確信をもっていたのだが…（泣）（審査副委員長も、「どれだけ練習したかと思われる演奏でした」と講評して下さい。）

最初のクラスも本当に見事で、さすが3年生の演奏は今までとはまったく違うという印象を会場に与えたと思う。しかし、その次に出て来た35Rに関しては、演奏はもちろんのこととして、演奏が終わった時の雰囲気、前のクラスの時以上に、会場全体で演奏の素晴らしさ・余韻を受け止めているように感じられた。

私の隣で聞いていらした音楽の I 上先生

も、演奏の途中からハンカチで涙を押さえ、演奏終了後には「先生、本当にイイ演奏でした。一年間でこんなに成長するんだなと感動しました」とおっしゃって下さった。もうこの段階で「これは入賞するに違いない！」という感触を得たのだが…これを書いている今でも納得できないなあ…。ちなみに、結果発表後もう一度 I 上先生は「35Rは本当によかったですよ～」と言って下さった。きっと先生自身にとっても意外な結果だったのではないかとイイ方に解釈している。

*

会場の外に出た時、おとなしい●●さんが悔しそうにしていた。パートリーダーとしての責任を果たし、それだけ頑張ったということだろう。その気持ちを大切にしよう。

そして、●●君と●●君の胴上げ（●●君には絶対に落とすなど言ったが私はヒヤヒヤだった…）。私はあの中にクラスみんなの気持ちが表れていたと思う。結果は結果だから仕方ないが、それを受け止めた上でああいう行動ができることを、そしてそういうクラスであることを、私は本当に立派だと思う。女子のパートリーダーや伴奏者の諸君も胴上げしたいところだが、多分ご本人たちが遠慮したことだろう（笑）。

*

ということで、本当は（未練がましいが…笑）「優勝おめでとう」と書きたかったのである（し、書けると思っていたのである…ってまだ未練がましいか…笑）、発表の時のドキドキは格別だったに違いない。そのドキドキを是非「次」にも結びつけていこう。